

「多言語・多文化社会論入門」  
2007年度1学期授業概要

1. 授業科目 総合科目 VI
2. 授業題目 多言語・多文化社会論入門 I
3. 対象学年 1年次～4年次
4. 開講学期 1学期
5. 曜日・時限 火曜・4限(14:50～16:20)
6. 教室 113教室
7. 授業の目標 グローバル化が進む中で、日本においても外国人登録者の数は200万人を超え、その国籍も多様化している。結婚する日本国籍者の15組に1組が国際結婚でもある。このように多言語・多文化化が急速に進行している日本の現状について、講師としてお招きした現場に関わる方々とともに歴史的視点および比較的視点から検証することによって、これからの日本社会を生きていくための新しい生き方・考え方の素養を自ら育んでもらうことを目標とする。
8. 成績評価の方法 毎回提出する簡単なレスポンス・シート(40%)と第13週のレポートとプレゼンテーション(60%)により評価する。2単位。
9. 受講上の注意 この講義は、多言語・多文化教育研究センターが開設する Add-on Program「多言語・多文化社会」の基礎的入門講座として開講される。
10. 授業の内容・計画 学内の教員ならびに学外から招待したゲスト・スピーカーにより講義をおこなう。別紙授業計画案を参照。
11. 注意事項 定員 100名。希望者多数の場合は抽選をおこなう。市民聴講生にも開講されている(市民聴講生は抽選の対象とならない)。
12. 担当教員: 青山 亨(あおやま とおる) . 東京外国語大学外国語学部インドネシア語専攻(総合文化講座)  
研究講義棟 633 .  
電話: 042-330-5300 . メール: taoyama@tufs.ac.jp
13. 事務連絡先 〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1  
東京外国語大学 多言語多文化研究センター  
電話: 042-330-5441  
Fax: 042-330-5448  
メール: tc@tufs.ac.jp  
ウェブサイト: <http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/>

「多言語・多文化社会論入」  
2007年度1学期授業計画

1学期に提起する問題群:

「労働者としての外国人」:在留資格、言葉、文化、地域への参加、日本人側の意識の問題、支援活動・施策、労働現場(雇用)、歴史

	日程	テーマ	講師
1	4月17日	オリエンテーション	青山 亨(東京外国語大学)
2	4月24日	授業の導入、アイスブレイキング、グループ分け	杉澤経子(東京外国語大学)
	5月1日	(休講)	
3	5月8日	ビデオ1(フィリピンの親子の事例):問題群の抽出	塩原良和(東京外国語大学)
4	5月15日	現場の声:日本で働くフィリピン女性	アガリン長瀬(KAFIN 埼玉)
5	5月22日	現場の声:外国人の法的地位と在留特別許可制度	山口元一(弁護士)
6	5月29日	議論:フィリピンの孤児院での支援活動から見える日本社会	横田 宗(NPO 法人 ACTION 代表)
7	6月5日	ビデオ2(ペルーの家族の事例):問題群の抽出	青山 亨
8	6月12日	現場の声:日系労働者受け入れの背景と労働の実態	高城一夫(東京外国人雇用サービスセンター室長)
9	6月19日	現場の声:日系労働者から見た日本社会の問題点	イシカワ・エウニセ・アケミ(静岡文化芸術大学文化政策学部)
10	6月26日	現場の声:日本で働く外国人労働者の子どもたち	ナディ(亜細亜大学国際関係学部)
11	7月3日	現場の声:在日コリアンの子どもたち	宋賢進(東京朝鮮学園東京朝鮮第二初級学校校長)
12	7月10日	学生によるグループワーク	青山 亨
13	7月17日	学生グループによるプレゼンテーション	青山 亨